

ファンタジー&ビビッド

夏のファッションのテーマは着こなし。どんなものを組み合わせて着こなすか……ここではその代表的な組み合わせを2タイプご紹介しましょう。そのIとして、ミニベストとシガレットパンツ（細いパンツ）。そのIIはローシルクのキュロットスーツ。この夏はこの2点につきるようです。色はにぶいグリーン系のマーズカラーできめましょう。そして全体のイメージとしては、ファンタジー&ビビッドでまとめるのがコツですね。

クラブ・ワーク

今ヨーロッパの音楽シーンで、最も話題のグループは、このドイツのグループ「クラブ・ワーク」でしょう。先進的な音楽家たちのグループは、往年のドイツ表現派時代の、冷く計算された、硬質の芸術に回帰しようとしています。スターマン・デビッド・ボウイや、イギー・ポップ、イーノといった、ちょっとプログレッシブな連中が、とにかくこのグループをはめちぎっています。

四人組の編成なのですが、特筆すべきは、彼らはほとんど電子楽器を使っていて、ごく普通のグループのように、ドラムやギターなどの、いわゆる楽器のかたちをした楽器を使わないことでしょう。

その音楽を、ことばで表現するのは、いささか不可能なような気がします。リズムもメロディーも、そしてハーモニーも、全て機械じかけで、ようするにこの四人は、そのイメージネーションを機械と一体化させて、独特の音楽を作りだしたのです。

前作「トランス・ヨーロッパ・エクスプレス」が発表されるや、いちはやくパリ・フレタポルテのコレクションの、ショーのための音楽として使われ、多くの人々をうならせました。馴れない耳には、重たくそして冷たく刻まれるリズム、機械をとうして変調した、低いヴォーカル、シンセサイザーの音などが混然一体となった、この音にとまどうかもしれませぬ。ただ馴れるにしたがって、この機械じかけの音のとりこになってしまおうでしょう。ディスコ・ピープルは、この音に合わせて、新しい踊りを考え、まるでロボットのような無表情なダンスが流行しました。東芝EMIより発売。



スーリアード

古代、サラセン人の創りあげた、いわゆるサラサ布が、陸路や海路をつうじて、世界中に渡りました。そしてその国々でも、サラサ風の布が発展していったわけです。そのサラサ写しフランス版が、このスーリアードというわけです。

プロバンス地方で、古くから作られていたこのテキスタイルは、一度すたれかけていたのですが、ここ数年の自然回帰のブームからまたフットライトをあげはじめたのです。それに先がけて、この消えつつあった伝統の染を、見事に復活させた、シャルル・デュメイという人物の努力がしのばれます。

質のよい木綿地、そして絹に、プロバンス風の明るく色鮮やかな、何度も何度もハンド・プリントされたこの生地、洗うほどに色がこなれてきます。多色刷りがあれば、シンプルな黒と黄土色もあります。なんと今では、4000種もの柄を復活させたそうです。

ハンカチーフ、スカーフ、洋服地、そしてインテリア・クロスとしても、とても多目的に使えるスーリアードの人気は、今高まる一方。遠くニューヨークやロサンゼルスにもファンはふえています。日本でも西武百貨店が輸入しており、生地のまま、あるいはバッグやスカーフに加工したものと、いろいろなか

たちで手に入れることができます。コーディネートされた製品も多く、ダッフル・バッグとハンド・バッグ、眼鏡ケース、コスメチック用の小バッグを、統一したひとつの柄でそろえたりする、そんな楽しみもあるわけです。

同じサラサの系統も、スペイン人によってアメリカに運ばれ、パンダナ染めとして定着した物、日本に渡って変化した物などいろいろですが、その美しさ陽気さにおいて、プロバンスのスーリアードが、今一番の人気者なのは納得できる話ですね。



モデル・シップとライブ・スチーム

狂気のハードな仕事から解放され、家族とくつろいだ後、ヨーロッパの男たちは、何をしておすのてしょうか。彼らに人気のあるホビーは何といっても、精密な帆船の模型やアルコールを焚いて走るライブ・スチームの汽車です。

モデル・シップ作りは、かなり根気のいる作業です。本物の船そのままに、竜骨を組み側板や甲板を張る。大きな船になると、数年かかるものもあって、材料費もなかなかのものです。部品も数百から千をこすものもあり、これをコツコツと毎日数時間ずつ作っていきます。食後のひととき、パイプをくわえながら、好きな銘柄のウィスキーを飲みながら……まさに男の世界ですね。

スウェーデンのピリング・ボート社、イタリアのアマティ社が特に有名で、数多くの美しい、そして歴史的な船をキットで売っています。スペイン無敵艦隊のガレオン船「イサベラ」や、クリッパー船「カティーンサーク」これはインドから英国へお茶を運んだ船ですね。またヨーロッパの小型漁船や外輪船など、キットのバラエティも豊富です。

なかでも見事なのは、イタリアのセルガル社製の「ソプリン・オブ・ザ・シー」号、全長1.5メートル近い大型モデルです。この船は特にデコレーションの美しさが見事です。気の遠くなるような、マストからマストへと張られたロープの本数、そのロープをジョイントする滑車の数。実物そのままの細かな金具などなど。

また、ただ船を作るだけではなく、港の風景や、ドックで建造中の船などを組合わせたそんな楽しみ方もいいですね。100分の1に縮小された世界を作りあげれば、ちょっとしたガリバーの気分になってしまいます。

ヨーロッパのお土産として、仲の良い友人に買ってきてあげるといのは、どうでしょうか。もちろん日本でも有名な模型店などで手に入れることができるのです。



サタデー・ナイト・フィーバー

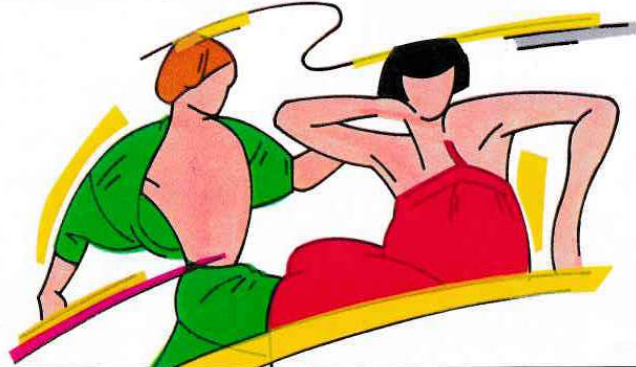
映画「サタデー・ナイト・フィーバー」は世界的に大ヒット。もともとディスコのさかんなパリやロンドンでも、ディスコ人種が、かなりがんばっています。パリのクラブ・セツにも、ファッションな連中が、夜の楽しみを求めてやってくるようです。

有名なデザイナー、カメラマン、モデルなどが、全員黒いファッションで、ディスコ・パーティーを開いたり、ゴシップのネタにこと欠かぬのが、ディスコティックだといえるでしょう。

ニュー・ファッションは、ディスコでの遊び着を発火点にして、あっという間に拡がる

ことが多く、今、ヨーロッパでは、黒と金、黒と銀など、色彩の組合わせはフォーマルにし、ただ今までにはなかった、革のパンツとシルクのブラウスの組合せのようなのも一種のフォーマル・ウェアとして、とらえはじめています。

楽しむ時間はテッティ的という、ラテン的な明るさがある、何ごとにもひかえ目すぎる日本人には、ちょっと真似のできないファッションもありますが、ヨーロッパのディスコ人種から、人生の楽しみ方のコツは学びとりたいたいものです。



アイス・ホッケー

冬の長いヨーロッパで、人気の高いスポーツはアイス・ホッケー。ゲーム中の観客の熱狂ぶりはたいへん。その興奮を部屋で味わってみませんか。このホッケーゲームは、ゲームというよりマシンの感じ。名前は「プロ・ホッケー・エレクトリック」。操作は極めて容易。しかし、本場の試合に負けないぐらいの迫力が伝わります。シュート、パス、ゴール……うとうしい梅雨を吹き飛ばすには、まさにうってつけです。(写真の品はスウェーデン製です)

